

戸田市自治基本条例検討市民会議中間報告会（概要記録）

○日時：平成25年7月27日（土） 13時30分～15時

○場所：戸田市文化会館

○参加者数：101名

1 開会

副会長挨拶（横山副会長）

- ・本来であれば会長から挨拶するところだが、会長は所用のため、副会長より挨拶する。
- ・市民会議は、戸田市のまちづくりの理念や基本的なルールを定める条例の内容を、市民と行政が協働により検討し、条例骨子案を市長に提言することを目的として、市民会議メンバー総勢35名が半年間をかけて、活発に意見交換してきた。しかし、私たちが気付かなかった点、不足している点があると考えている。この報告会において、皆様の忌憚のないご意見、ご要望などを後ほど聴かせていただきたい。あるいはアンケートでお答えいただきたい。それらを踏まえて、より良い条例の骨子案の作成に努めていきたい。
- ・戸田市には7月1日現在、12万9,061人の市民が生活しており、5万7,938の世帯があると市役所のホームページにあった。この条例制定を検討している市民会議は、わずか35名で活動している。「一体、このような少ない人数で何ができるのか」と私は最初そう思った。しかし、ある言葉に出会いそれは違うと思うようになった。それは、「私たちのすることは、大海のたった1滴水にすぎないかもしれない。でもその1滴水が集まって、大海となるのです」。これは有名なマザー・テレサの言葉だが、確かにこの半年間35人が活発な意見交換をし、時には対立する意見を戦わせてきたが、そこに信頼と協力が生まれていた。松下アドバイザーは「条文ではなく自治をつくる。」と繰り返し話されたが、その自治というものがこの小さな集まりの中で生み出されてきたということを私自身が感じた。
- ・この報告を皆様に聴いてもらうことによって、この輪がさらに大きな輪になり、そして自治が作りあげられていくということが、この大きな働きの大きな恵ではないかと思う。

2 中間報告

○戸田市のビジョン

- ・「ビジョン」は条例の姿勢や理念に大きく関わる大切な部分である。これから戸田市がどのようなまちを目指すのか、私たちが暮らしている戸田市がこれからも住み続けたいまちであるために私たちが理想とする自治（まちづくり）のビジョンを検討してきた。その結果、色々な意見が出てきたが、それを内容ごとに分けてみた。
- ・戸田市の将来ビジョンを考えるには、まず今どんなまちであるかを知ることが必要である。様々な意見が出てきたなかで、既に多くの市民が感じていることもあると思われる。しかし、これからより良いまちを目指すためには、今足りていないところを充足させていくよう、みんなで力を合わせていくことが大切である。他のまちとは異なる、戸田市だけが持っている特性や独

自性などを改めて見つめ直しながら、これからも慎重に検討を重ねていきたい。そして、この項で挙げられた意見は、条例の前文や目的規定、理念規定といったことに当たると思われるため、条文等に反映していきたいと考えている。

○市民とは

- ・市民とは、狭義では住所を有する者だが、それ以外に様々な形で戸田市に関わっている人がいる。また、戸田市の職員で市内に住んでいない人は50%を超えているという現実もある。教員においては、市内に住んでいる人は10%台である。さらに、戸田市は昼間の人口が夜の人口よりも多いまちで、市外から働きにきている人が多い。そういった人も含めて、戸田市を住み良いまちにしていくという課題を担っていくことになる。提案をし、一緒に汗をかく中で信頼関係が生まれるわけで、ただ住所を登録し、行政サービスを受けるだけでは真の市民ではない。たとえ通りすがりの人であっても、その瞬間は戸田市の市民としての自覚を持ってほしい。
- ・ジョン・F・ケネディが、行政に対してあれこれと求めると同時に、自分に何ができるか、何をもって社会に貢献するかを考える市民であってほしいと述べた有名な一説があるが、これはどの社会であっても変わらないと思う。そういった意識をもった市民が社会を構成することで、信頼関係が生まれ、それが良いまちづくりの基本になると考える。

○市民はどうあるべきか ～期待される市民の役割は～

- ・市民はどうあるべきかについて、私が主張したいのは「自己責任」と「行政との対立と協調」という問題である。いずれも中間報告書にはないことなので、今後議論する機会があることを望む。
- ・今回私が提案した言葉として、「近助」がある。阪神大震災や東日本大震災を経験し、2～3軒、5～6軒で助け合うというコミュニティの基本がないと、共助も公助もうまくいかないと感じた。「近助」を市民会議のブランドにしていきたい。
- ・また、盛んに議論されたこととして、地域のリーダーの養成と、リーダー同士の協調、連携という課題があった。地域のリーダーは、様々な課題、得意分野において生まれるものであり、リーダーとリーダーの連携が重要である。
- ・今後は、中間報告書の意見について議論し、意見を寄せる努力をしてほしい。

○議会はどうあるべきか ～議会に期待される役割は～

- ・今まで市民と議員は「1票」を投じる、「1票」を得る、という関係だったが、これからは、市民も議員も「1票以外にできること」を考えなければならない。例えば、「情報の発信や公開」、「市民や地域との関係」の意見を要約すると、市民との1票以上の関係性の構築と強化をもっと頑張りたいということ。別の見方をすれば、議員と一緒に問題に取り組もうという市民のやる気の表れである。また、「議会や議員に期待すること」としては、優先順位をつけてほしい。「長期的な視点を持って」という言葉があるが、これは言い換えれば、選ばれた人として、

議員が自らの決断に責任を持ってほしいということである。

- ・戸田市議会では、議会基本条例を既に制定している。今後は議員の建て前と市民だから言える本音も交わるだろう。議会基本条例と自治基本条例とに良い相乗効果が生まれることを大いに期待したい。

○行政はどうあるべきか ～行政に期待される役割は～

- ・市民は税金を納付し、その対価として行政サービスを受けているため、行政に対する視線はどうしても厳しいものになるが、一方で、行政の現場は逼迫している。「課題への対応」の中に、「市民間で話し合う機会を作るため、行政は回答を急がない」とあるが、これは言い換えれば、全ての苦情に答えている時間や人員に余裕がないとも言えるし、「市民は現場対応能力を身につけて身近な問題を解決してください」という市民へのお願いとも受け止められる。
- ・行政には「社会的正義」が求められている。市民が納得するには説明が必要で、情報の共有や公開がなされなくてはならない。
- ・市内で活躍されている市民活動家等の市民パワーを余すことなく発揮するための環境づくりは、行政にこそ期待される役割であり、それは非常に投資効果の高い有益な税金の使い方と言えるのではないか。
- ・「創意工夫の必要性」に、人と人とが出会える場や仕組みセッティングを行うという意見がある。今後の行政と市民のパートナーシップに大いに期待する。

○市民・議会・行政が力を合わせるための仕組み・共通ルール（参加、連携、交流等）

- ・何も疑問を持たず、何も発言しなければ、今の戸田が変わらないし、自分たちの生活が変わることもないだろう。自ら考えて、自ら発言するということ、また他人の意見を聴くということが、これから自治を行うにあたって基本的な一番大事なことではないか。
- ・「参加・話合いの仕組み・場づくり」としては、町会の活動や参加方法、市民活動団体等の活動を分かりやすく提供すること、誰でも会議を呼びかけられる仕組みをつくること、また市民と行政が、縦割りではなく、一つのテーマで対等に意見交換できる場をつくることが重要である。敷居を低くし、誰でも気楽に参加できる場をつくっていきたい。
- ・「連携・協働の仕組み」として、市民・議会・行政の3者が直接話ができ、互いに補完して力を統合できるという仕組みが重要である。この条例ができたところから、自治がスタートすると考えており、それを導くのは行政であり、また議会の協力ではないか。
- ・「つながり・交流の仕組み」については、NPO やサークル活動、個人、町会で行政との接点がある市民が窓口になるのではないか。また、議会と市民のつながりの場を増やして、市民に政治、議会に関する親しみをってもらうようにすべきではないか。
- ・「参加・話合いの場づくり」は、行政に委ねるしかないが、「市民の方から話したいテーマや課題があるので皆さんを招集してほしい」という働きかけはできるのではないか。そのための仕組みを考えたい。特定の市民ではなく、多彩な顔ぶれが揃うことによって、様々な意見、新しい視点でのアイデアが出され、自治の活性化につながると思う。

- ・今日参加されている方には、アンケート等、何らかのアクションを期待している。また、職員メンバーが自分の部署に戻って課内で話し合うなどにより、様々な意見が出てくると思うし、市長には、戸田市の将来を真剣に考えている若い人たちの意見を、十分集められるようにしてほしい。

○市民・議会・行政が力を合わせるための仕組み・共通ルール（情報、活動、制度、PR等）

- ・情報共有のためには、伝えるだけではなく、互いに持っている情報と出してほしい情報をコミュニケーションしていく必要がある。また、災害時などに備えて個人情報の開示がどこまでできるのか、どのような形でできるのかを議論していかなければならない。
- ・「活動を継続・活性化するための仕組み」「町会・自治会等の活動をより生かすための仕組み」については、町会や身近な所から集まってくる情報を、行政が吸い上げることができるような仕組みをつくる必要がある。「民生委員のみでなく世話好きな方を選出して」ということも書いてあるが、身近なところから繋がっていかないと、人というのはなかなか動けない。
- ・「制度」として、多くの意見を吸い上げる提案制度の仕組みをつくる。「PR」として、戸田市の素晴らしさを外部にアピールしていくことも必要ではないか。「人材」については、人材を発掘していく、リーダーをつくっていくことが必要である。ただし、リーダーがインセンティブを感じられると良いと思う。リーダーのネットワークづくりも大切である。また、市民・議会・行政の3者が連携・協働するためには、情報を発信・共有する仕組み、3者が話し合う場・機会を設ける仕組みが大切である。また、市民が市政に参画し、かつ、市民自らが地域課題を解決する仕組みづくりができるようする必要がある。
- ・戸田市では、情報公開制度や個人情報保護制度が条例化されており、パブリックコメントも要綱により整備されている。広報紙、インターネット、ホームページ等、色々な形で情報発信されているが、それらがきちんと届いているのか。情報は投げ放しではなく、受け手側がどう受け取りたいのか、何を受け取りたいのかを考えなければならない。市民・議会・行政がどのような形で情報共有できるか、これから考えていきたい。

3 戸田市長挨拶

神保市長

- ・協働によるまちづくりの主体である、市民、議会、行政について大変参考になる示唆に富む話を聴いた。自分たちの手で自治のルールをつくるという大変強い熱意を感じた。
- ・地域課題を解決するために、市民・議会・行政の役割を確認し、戸田市独自のまちづくりの理念や、基本的なルールを定める自治基本条例がこうして策定されていくことを私自身は大変嬉しく思っている。
- ・戸田市は7月1日現在で人口が12万9,061人、平均年齢39.15歳という埼玉県一若いまちであり、子育て支援に一生懸命力を入れているが、様々な課題もある。一方で高齢化も急激に進んでいく。そのスピードは全国で10番目と言われおり、将来を見据えた高齢化対策を今からしっかりやっていかなければならないと考えている。

- ・そういった課題を解決するための基本的なルールを定める自治基本条例をつくるということは、大変意義の深いことだと改めて自分自身認識している。
- ・昨年7月から市民講座、市民協働ワーキング、この2月から市民会議を続けてきていただいた。皆様の努力に改めて深く感謝申し上げます。市民会議は、市民委員と職員委員とが熱心に意見交換をし、まさにこの自治基本条例のコンセプトの一つである「つくりながら協働の第一歩とする」ということが実践されていると思っている。また、今日の報告会もそういった意味では、まさにそこに通ずるものではないかと思っている。

4 講評

松下アドバイザー

- ・戸田市らしいと思った点は何点かある。最初に副会長の挨拶の中で、「市民会議のメンバーは戸田市の人口12万9,061人のうちの35人に過ぎない、その私たちが本当に市民の思いを代弁できるのか」とあった。そういう謙虚なところから出発をして、「私たちが小さな1滴けれども、その1滴が大きな海になる、あるいは小さな輪が大きな輪になっていく」という話であった。そのような視点での話を聴いたのは初めてだった。大変印象に残った。
- ・2つ目として、皆さんのプレゼンのうまさには驚いた。自分の意見を自分の言葉で話していた。社会で鍛えられている人たちがこの会議に参加しているのだと改めて思った。「市の会議でよく見かけるメンバーとは違う、新しい人々がこの市民会議に参加して、戸田の自治を考え始めた」ということだが、このことは自治基本条例をつくる意義とダブるように感じた。
- ・内容的には感じたところがいくつもあったが、特に感じたところだけを話したい。
- ・4ページの「戸田市のビジョン」は、色々な意見はあるが、今日の発表を通して、根底に流れているもの、核になっているものは、「みんなで考える、そして提案をしていく、あるいは自分のことだけではなくて、まちのことを考えていく」ということだと思われる。要するに、「お任せ」や「要求するだけ」という姿勢とは対極のものである。そういった姿勢を戸田の新しいまちづくりの骨格にしていこうということが、全体の意見を通してあったのではないかと思われる。先ほど「自己責任という言葉が欠落した」という発表があったが、まさに自分で考え、責任を持っていくという姿勢がこれまでの検討の中で一貫して出てきていると思った。
- ・6、7ページの「市民とは」だが、戸田のまちの状況を見ると、市役所職員の50%は市外に住み、教員のうち市内に住んでいるのは10%とのこと。そうだとすると、市民の有り様は、他のまちとは違うという議論をされた旨を聴き、なるほどと思った。ただし、今後議論を詰めていく中では、「通りすがりの人」と「戸田市に根を下ろしている人」との責任の重さは違うのではないかと、といったことも議論してほしいと思った。
- ・8ページの「市民はどうあるべきか」だが、市民には、「個人」も「地域コミュニティ」も「NPO」も「事業者」もある。NPOや事業者の役割というのも重要になってくると思われるため、そういう人たちにも焦点を当てた、更なる議論があってほしいと思う。
- ・9ページの「議会はどうあるべきか」のところだが、この会議の発端となった出来事を整理した話の中で、「お金がないから検討を始めた」との話があったが、私には異論がある。動機はそうかもしれない。しかし、市民が「自分のまちのことを自分で考える」ことは当たり前のこと

だと思う。このため、もしもお金があったとしても、自分たちのことは自分たちで考えていく必要があるのではないかと感じる。確かに動機としては、自治体はこれからどんどんお金がなくなっていくという現実はあるが、「やはり、まちづくりは自分たち市民の方が得意だ」と、自分たちがやるべきだという考え方を基本に据えると、やるべきことや仕組みの中身が見えてくるように感じている。

- 議会・議員の役割として、私が一番大事だと思うのは、市民が自分たちの問題として考えるために、その素材や材料を分かりやすく市民に知らせていくということだと思う。「今こういうことが問題になっていて、これが論点である。」ということを知らせてくれること。それによって市民が自分たちで考え判断していく材料ができると思われる。市民の判断を受けて、議員もまた自らの判断を決めていくことができると思われる。市民が考えるための材料を提供する機能、「教育的機能」と言われているが、そういった機能も大事であると考えている。
- 10ページの「行政はどうあるべきか」だが、改めて気付かされたことがあった。それは「社会的正義」ということ。「役所が曲がったことをやってどうするのか」や「役所はきちんと筋を通してくれる」といった姿勢を役所が持っているからこそ、役所は皆から信頼を得られていると思う。「社会的正義」という言葉はとても大事な言葉だと思う。
- 12ページの「市民・議会・行政が力を合わせるための仕組み・共通ルール」だが、ここがおそらくこの条例のメインになると思われる。理念だけではなく、仕組みをどれだけ用意できるかということ。その仕組みの下に、具体的な仕組みをどれだけ組み立てられるかというところがポイントになると思われる。その意味で「参加の仕組み」「協働の仕組み」「連携の仕組み」というのは大変重要である。ここで大事なのは、「多様な仕組み」「重層的な仕組み」だと思う。一つだけでは駄目で、アプローチの方法や手段も人それぞれであるため、そういう様々な人たちが様々なチャンスで参加し、協働し、連携できる仕組みを用意することが重要である。多様性、重層性が大事なポイントだと思う。更に検討を進めてほしい。
- 13ページでは、「つながり」「交流」が気になった。以前、たまたま蕨市で会議があった時、蕨市役所から戸田市まで歩いたことがあったが、とても近いと実感した。考えてみれば、この辺りのまちは隣同士が近い。このため、行政区域だけではなく、「生活圏」といった考え方も大切なのではないか。例えば、スーパーマーケットへの買物客は、それが隣町にあるのかどうかは特に意識せずに利用し、お互いが行き来している。隣のまちの人たちとの連携、交流、お互い助け合い一緒にやっていくといった視点も大事なように思う。戸田市の特性、一つの要素として考えられたらどうかと思った。
- 14ページでは「リーダーが活躍するインセンティブ」という話があった。私が知っている町内会長に「なぜ活動しているのか」と聞いたところ、「苦労はするけど、“ありがとう”と言われるから」と言っていた。みんなのためにやってくれる人に感謝をし、「ありがとう」を言える社会ができれば、まちもリーダーたちもさらに元気で頑張っていく動機付けになると思われる。「ありがとう」とは条例には書けないかもしれないが、感謝の気持ちを表すということも考えたらどうかと思う。インセンティブという言葉も聞いて改めて思った。
- 最後になるが、自治基本条例で大切なことは、条文をつくる作業そのものではない。条文をつくるだけであれば、あっという間にできてしまうだろう。ただし、そのようなものは、何の役にも立たない。自治をつくることの「自治」とはどういうことなのか。それは、自分のまちの

ことを考えること、自分も意見を言うこと、そして大事なことは他人の意見を聴くこと。その中で「こうしよう」という合意ができていく。話し合うことによって、「できること」と「できないこと」がはっきりしてくる。要望するだけであれば、できないことであっても、いくらでも言うことができる。しかし、話し合ってみると、現実には厳しいことが分かってくる。そして、物事にも「できること」と「できないこと」が存在することが分かってくる。このようなことは、これまでの検討の中で経験されてきたと思う。自治基本条例は、自治をつくっていく動きである。条文が出来ても、これまでの検討過程の中で経験した「話し合い」を更に実践してほしいと思う。そういうことができるまちをつくってほしいと期待している。これからは、条例化の具体的な検討作業に入るが、これまで出てきた意見の中には優劣もあり、優先順位をつけていく、絞っていく、あるいは足りないことを補っていくことになる。そこでは様々な議論が交わされると思う。しかし、そういった意見も聴きながら、更にバージョンアップを進めてほしいと思う。

- ・市役所の人には「この動きを潰したら勿体ない。潰してしまったら、二度とこの流れができてこなくなるかもしれない。大事にしてほしい。」と何度も強く言っている。これからは、条例化に向けた作業に入るが、これまで過程の大切にして、「自治を実践する」「協働を実践する一つの仕組み」の動きとしてなっていくことを期待している。

5 意見交換

質問・意見

もっと多くの市民の皆さんに、条例のこれまでの経過、状況など知らせていくことで、もっといいものが出来上がっていったらいいと思う。そういう意味で大事なものは、松下アドバイザーもおっしゃった重層的に多様な意見をどのように取り入れていくかということで、ユニバーサルな視点も必要ではないかと感じているが、この点どのような方法を考えているか。

横山副会長

ユニバーサルということについて、なかなかこの場ですぐに回答することはできないが、現段階での市民会議に与えられているテーマは、検討を更に掘り下げていくということであると考えている。これまで自分の想像できる範囲で議論を重ねてきたので、その情報をどのように発信していくかについては、意見交換も議論もまだしていないのが現実である。ただ、今後は、これを少しでも多くの方に知っていただく必要があると考えている。今日のアンケートもその一環であり、そういう意味では、中間報告会が輪を少し広げたと思っている。アンケートのご提案を踏まえて、事務局や委員と意見交換し、より広がりをもたせていきたいと思うが、同時に議員の皆さんにもぜひこのことを色々なところで紹介していただきたい。

6 閉会

副会長挨拶（横山副会長）

- ・本日は、長時間にわたり中間報告会に参加いただき、お礼を申し上げます。

- ・市民会議は、マラソンに例えるならば、ちょうど折り返し地点に到達したところである。
- ・これまで様々な意見があった。十分な議論がなされていないと考えるメンバーもいると思う。
- ・今日ご来場の皆様からは、アンケートにご協力いただきたい。本日の感想、頑張ってくれという励ましの言葉、こういう点はどうかとの質問や提案、自分の周囲ではこんなことが課題になっているといった情報などを寄せていただきたい。
- ・これからは、これまで出てきた一つ一つの内容を整理・精査し、優先順位を付けていくという過酷な作業になる。松下アドバイザーを始めとする皆さんからご助力いただきながら、進めていきたいと考えている。
- ・今後のスケジュールであるが、8月21日に第8回の市民会議が開催される。関心のある方はぜひお気軽においでいただきたい。また、11月には条例骨子案を神保市長に提出する。その後は条例をつくっていく作業に入る。ぜひ皆さんからのご協力をいただければと思っている。